

はらっぱ

平成26年11月10日
山形市立南沼原小学校
学校だより 第9号
文責・発行 校長



感動！創立110周年記念“はらっぱフェスティバル”



芸術の秋です。11月6日(木)に、創立110周年記念式典と記念の「はらっぱフェスティバル」を開催しました。「はらっぱフェスティバル」は翌日、再演もしました

記念式典では、校長が本校の歴史とともに、先輩が築いてくださった伝統を私たちも引き継いでいることや、山形県で一番人数が多い中、みんなで創り上げてきたことが学校の特色になっていることなどを伝えました。児童代表の6年 土屋太陽君は、新グラウンドが新しい歴史に刻まれた喜びを語り、ご来賓の小関利明同窓会長様からは、新グラウンドで沢山遊んでほしいというお言葉をいただきました。創立110周年を記念した、校歌にあるすずかけの木の植樹や先輩の朝倉さやさんをお招きしたスクールコンサート、沢山の出店で賑わったはらっぱお祭り広場、児童に配付したリーフレットやクリアファイル作成など、南沼原地区町内会連合会、同窓会、PTAの皆様のお陰であり、心から感謝申し上げます。



はらっぱフェスティバルでは、各学年が学習で学んだことを、思い思いのパフォーマンスで表現しました。1年生は『ひまわり学年、みんななかよし』と題して、足し算や音読、鍵盤ハーモニカの演奏、ダンスをつないで表現しました。「けんかした山」の音読は役割に分かれて、大きな2つの山がけんかする場面を迫力のある群読で表現しました。入学してからできるようになったことが沢山あることが伝わりました。



2年生は『あそびでめぐる 世界の国々』と題して、始めに色々な国の挨拶の歌を全員で歌い、続いてタイのバンブーダンスに始まり、イギリス、アメリカ、スウェーデン、日本の国々の遊びを歌やダンスで紹介しました。フルーツバスケットやダルマさんが転んだに似ている遊びもあり、世界はつながっていることが伝わりました。



3年生の『まほうの国へようこそ』は、音楽の学習で発見した不思議な音を使って魔法を掛け、楽しい寸劇で表現が展開しました。3年生で学習したリコーダーの曲を演奏し、アップテンポのかっこいいダンスを披露。指使いが難しいリコーダーの澄んだ音色とキレのあるダンスを踊る姿に、中学年としての力強い成長を感じました。



4年生の『ひかりっ子 夢に向かってジャンプ!』は、今年、市民合同音楽祭で歌った曲『ジャンプ』とつなぎ、縄跳びやフラフープの技を「体のジャンプ」として表現。また、学んだことを寸劇や呼びかけで「心のジャンプ」として紹介し、最後は全員で市民合同音楽祭で歌った2曲を合唱しました。難しい縄跳びの技をこなし、澄んだ高音の伸びが美しく響く合唱に、高学年に向けて成長していることを感じました。



5年生の『クローバーの仲間とともに』は、自然の家での宿泊学習で体験したテント設営やウォークラリーなどを通して学んだ「仲間と協力すること」を、寸劇とダンスで表現。また、外国語活動で学んだ英語を披露し、英語の歌2曲を全員で歌いました。体験を通して仲間とのつながりが深まり、成長したことが伝わりました。

6年生の『つなぐれ「絆」』は、「仲間とのつながり」と「挑戦」がテーマでした。始めに呼びかけを通して「絆」に対する思いを語り、社会科で学習した日本の歴史から学んだ「人とのつながり」を寸劇で表現しました。また、軽快なリズムに乗せてマット運動やダンスなど迫力ある身体表現を発表し、卒業までの決意を込めて力強い全員合唱を披露しました。一番人数の多いきずな学年の大迫力のダンスや歌声に、仲間との心のつながりと挑戦する心を感じました。最後は、全員合唱『Take off-夢に向かって-』で締めくくり、みんなの歌声が一つになって体育館いっぱい響きました。



これまで練習の様子を見ていて素晴らしいと思ったのは、発表をつくる過程で、子どもが中心になって、「もっと良くするためにはどうしたらいいだろう」と考えを出し合って高めようとしている姿が見られたことです。ただ教師に言われた通りに歌ったり踊ったり寸劇をしたりするのではなく、どこをどうすればもっとよくなるのかを子ども自身が考え、仲間に発信する。そうした学びがもっともっと広がるように、今後も指導していきます。

今回の学習発表会で全体に流れていたのは、「仲間との関わり」「思いのつながり」でした。私たちが目標としている「仲間とつながることを通して、学びが深まった姿」がたくさん現れていました。それぞれの学年の学習や今日の発表のためにご協力いただいた保護者や地域の皆様に、心から感謝申し上げます。

“赤い羽根募金” ご協力に感謝 みんなでやろう！ボランティア

児童会のJRC委員会が中心になって、「赤い羽根募金」が行われました。10月20日(月)～24(金)の間に各家庭でドラえもん募金箱にお金を入れていただき、10月27日(月)～31(金)の間に学校で、係の子どもたちが回収しました。このお金は、幼児やお年寄り、障がいを持つ方々のために、また災害支援や様々な福祉活動に使われます。

さて、こうした活動で大事なことは、子どもが「自分のお小遣いやお使いなどでもらったお金の一部を自分の意思で寄付する」ことだと考えています。せっかくもらったお金を寄付するのはもったいない気持ちがありますが、それを越えて困っている人のために寄付することに値打ちがあります。ですから、「赤い羽根募金だからお金ちょうだい。」というのでは意味がありません。人と共に生きるために“身銭を切って”協力する気持ちを育てることに、この活動の意義があると考えています。

またJRC委員会では、“みんなでやろう！ボランティア”と称して、できたら〇をつけるボランティアカードを使って、①ボランティア活動(ペットボトルキャップ・プルタブ・空き缶回収や赤い羽根募金) ②人の役に立つ活動(友達の力になる、ゴミを拾う、家庭でのお手伝い)の活動に取り組んでいます。

保護者の皆様のご協力に感謝するとともに、今後も、子どもたちに「共生の心」を育てていきましょう。



“フラワーいっぱい運動”

児童会のフラワー委員会の子どもたちが、“フラワーいっぱい運動”を展開しました。10月27日(月)～31(金)の間、「緑で一杯の学校にしたいので、家に花や花の種があって、持ってきてほしい人は持ってきてほしい」と呼びかけ、登校時の8:00～8:15に、児童昇降口で花や花の種を受け取りました。花は、ペットボトルで作った花瓶に生けて、校内に飾りました。種は、来年まで取っておいて、鉢や花壇などに植える予定です。

自分たちの生活を豊かにするために、子ども自身が考え活動することを大事にしていきたいと考えています。子どもの側からの学校の活性化に拍手です。ご家庭のご協力に感謝いたします。



“山形市小学校吹奏楽発表会” ブラスバンドの演奏に喝采

芸術の秋の第2段。10月29日(水)に、市民会館を会場に「山形市小学校吹奏楽発表会」が開催され、本校からブラスバンドの子どもたちが出場しました。曲目は『「かみごと」～幼い日に見た祭りの情景～』(指揮：東海林恵里子教諭)です。部長の鈴木茜さん、副部長の原田奏さんが、今年秋田市で開催された東北大会で演奏した曲だということを紹介し、演奏が始まりました。洋楽系の曲の発表が多い中、どっしりとした和の世界を描いた本校の演奏は聴き応えがあり、演奏後満場の拍手が送られました。講師の先生方からいただいた講評を紹介します。



『日本の祭り』のリズムが最初から効果的に演奏され、金管のサウンドと打楽器が見事にアンサンブルできていたと思います。中間部の各ソロの表現がとても大人っぽくて、メロディを支えるハーモニーもよく機能していました。後半から場面転換するところの打楽器のリズムが引き締まっていて、よく切り替えられていました。金管と打楽器のみで、これだけの演奏・表現ができるということに、とても感心しました。サウンドも、とても美しかったです。これからのますますの活躍を楽しみにしています！！

いつもご指導いただいております石井修先生、楽器の運搬など保護者の方々のご協力に心より感謝申し上げます。